

#### 「SDGs達成に向けたアジア国会議員会議・視察－高齢化・少子化・若者に焦点を当てて－をモンゴルで開催」

国際人口問題議員懇談会（JPPF）事務局を務める（公財）アジア人口・開発協会（APDA）は、6月12日にモンゴル国会のホストおよび国連人口基金（UNFPA）の後援の下、高齢化・少子化・若者に焦点を当てた「SDGs達成に向けたアジア国会議員会議」を、ウランバートル市のモンゴル国会で開催しました。



世界総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は、1950年の5.1%から2015年に8.3%に上昇し、さらに2060年には18.1%にまで上昇すると見込まれています<sup>1</sup>。特にアジアでは、韓国、シンガポール、中国において、日本を上回るスピードで高齢化が進み、また開発途上国においても、今後急速な高齢化が予想されています。

高齢化は寿命の延びだけでなく、出生率が人口置換水準を下回ることによって進展します。特に日本や韓国などのように極端に低い出生率は、社会構造の急激な変化を引き起こし、持続可能な開発に大きな影響を与えることとなります。今回の会議には、アジア11カ国の国会議員、専門家、国連機関代表、NGO等が参集し、持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための重要な課題として、東アジアを中心にアジア諸国が直面している高齢化と少子化の両側面を取り上げ、高齢者政策と両輪をなす若者の教育・雇用促進を含むエンパワーメント、および男女共同参画を含む少子化対策に向けた制度設計について協議を行いました。日本からは、牧島かれん衆議院議員がJPPF代表として参加し、開会式で福田康夫APDA理事長・JPPF名誉会長の主催者挨拶（以下に全文掲載）を代読し、また「若者と女性のエンパワーメント」について日本の取り組みを紹介しました。



会議では、国会議員および専門家による発表と熱心な協議の後、その成果として、SDGs実施に向けた国会議員の役割を明確にした「ウランバートル宣言」が採択されました。

<sup>1</sup> 内閣府「平成29年版高齢社会白書(全体版)」[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1\\_1\\_5.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1_1_5.html)

翌13日の視察プログラムでは、最初に、国際家族計画連盟（IPPF）加盟団体であるモンゴル家族福祉協会（MFWA）のウランバートル市内の活動拠点を訪問しました。MFWAは全21県中15県に支部を置き、政府や国際機関との協力の下、住民、特に妊産婦へのリプロダクティブ・ヘルス（RH）・家族計画に関するサービスを提供しています。参加者たちは、施設やサービス提供の様子を視察し、また思春期プログラムにおけるRHの知識や関心の向上を図るための活動に参加する若者とも交流しました。



続いて、トゥブ県総合病院を訪問し、UNFPAが実施する“telemedicine”（テレメディスン：遠隔医療）の様子を見学しました。モンゴルは広大な国土に対して人口が少なく、設備の整った医療施設は、人口の4割以上が住む首都ウランバートルに集中しているため、ウランバートルの医師と遠隔地の医師をインターネットでつなぎ、診断治療のアドバイスを行うテレメディスンが効果的な対処法となっています。この総合病院でも、この取り組みによって妊産婦がウランバートルの医師の診察を受けられるようになり、妊産婦死亡の削減につながっているとの説明を受けました。JICA研修の経験者である院長からは、「難しい症例が生じた場合には、このテレメディスンを利用し、日本の医療機関と連携したい」との強い希望が寄せられました。これは、これまでの国際協力から一歩進んだ、日本が貢献できる有機的連携の可能性を示していると言えます。



視察の後には、国会議長のご厚意によりミニ・ナーダム（夏祭り）が特別に開催され、参加者たちはモンゴルの伝統文化を堪能しました。

\*\*\*\*\*

### 主催者挨拶

福田康夫 元日本国総理大臣

公益財団法人アジア人口・開発協会（APDA）理事長・国際人口問題議員懇談会（JFPF）名誉会長

この度は、「SDGs達成に向けたアジア国会議員会議・視察一高齢化・少子化・若者に焦点を当てて」にご参集賜り、心より感謝申し上げます。

2015年の国連総会で人類の未来を持続可能にするための目標であるSDGsが全会一致で採択されました。これは、このままでは持続可能な開発を達成することはできないという深刻な危機意識が共有された結果と言えます。このような状況の中で、世界人口は増加を続け、グローバル化の進展も相まって資源問題を含め、地球環境に大きな影響を与えています。

モンゴル国は広大な国土に恵まれ、その人口は約300万人とまだまだ余裕があるように思えます。各国の人口の多寡を単純に言うことはできませんが、人口が増加を続ける中で持続可能な開発の達成が困難であることは間違いのない事実です。そして、その人口がその国の経済活動と適合したものであること、もっと言うとその国の置かれた自然環境の中での扶養力とそぐったものであるかどうかは重要な視点であろうかと思えます。

現在、増加を続けているモンゴル国の人口は首都ウランバートルへの人口集中を生んでいると伺っております。またモンゴル国の場合その社会開発の進展に比して平均余命が低く、また妊産婦死亡率が高いなど、保健・リプロダクティブヘルス上の課題を抱えていると伺っております。

これに対応するためには、健康な若者の育成がまず最初の条件であり、この増加する人口を適切に活用できるような、都市インフラをはじめとする、社会・経済システムの構築が求められているのではないのでしょうか。そのためにはまず保健分野を中心とした適切な社会保障制度の構築や教育投資が重要になってきます。

現在、世界の人口の様相は非常に多様なものとなっています。アフリカで人口増加が引き続く一方、欧州、東アジアを中心に高齢化が深刻な課題となり、数多くの課題が生まれています。

我が国などの例を見ると、社会保障制度などは若者が多く、経済的に活発な時期を活用しなければ、それを構築することはできません。

モンゴル国にはぜひ我が国から多くを学んでいただき、国民の福利を増進させるためにも、その広大な国土全体を活かし地方も活力のあるような、環境に適合的で、確実な経済発展を遂げることのできるような国づくりを実現していただきたいと思います。

各国ごとに直面している課題は異なりますが、全ての新しく生まれてくる命が祝福され、年齢に関わりなく、男女共にその能力と希望に応じた様々な形態で社会参画できる社会を作ること、ここにいらっしゃる皆様にとって共通の目標であろうと思います。

APDAとして、SDGs達成に向け、人口問題を中心にできる限りの貢献をしていきたいと思っております。ぜひ皆様の熱心な討議と、そこから豊かな成果が生み出されることを祈念し、ご挨拶いたします。

\*\*\*\*\*



国際人口問題議員懇談会（JFPF）事務局  
（公財）アジア人口・開発協会（APDA）  
TEL: 03-5405-8844  
FAX: 03-5405-8845  
E-mail: [apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp)  
Website: <http://www.apda.jp>

JFPF 入会をご希望の方は、[apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp) までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は [apda@apda.jp](mailto:apda@apda.jp) までお願いいたします。